資料参加 2011/03/19 JOA O-FORUM2011「多様な普及チャンネルを考える」

中高生オリエンティアについて

～2005 年度版の続編・東海中高顧問 14 年間の総括として～

東海中学高校顧問 大野聡生

2005 年度に中高オリエンテーリング関係者にアンケートを実施しレポートをまとめた。2006 年 3 月ＪＯＡフォーラムにおいてもレポートをさせていただいた。その後 5 年間の、東海中高から見た中高生オリエンティアの現状や、大学生初心者を含むジュニアについて、私見を述べさせていただく（※一学校部活動顧問としての意見）。

1 従来型「普及チャンネル」の“行き詰まり”

①学校クラブ（部活動）の“限界”

5 年前に比べ、インターハイや全日本大会への参加校数は目立った増減はない。この 5 年間に新規設立した学校もあったが、大きな波となっていない現状。様々な危険があるオリエンテーリング競技は、現代学校教育における活動としてはなじまないし、普及の可能性はほぼ無いと感じる。

②普及主体者の“混乱”　ＩＣ･全日本･ＩＨ･JWOCセレ 4 週連続開催

何がどう決まっているのか？　「目標」をどこに、何に、定めていけばいいのか？　今年度末の大きな大会が 4 週連続で設定されていることが象徴していると感じている。繁忙きわめる年度末に土日に遠征引率するのは、普通の学校では難しいことであろう。したがって、意志ある選手個人自身の問題となるであろう。その中高生選手においては、さすがに 4 週連続で目標を切り替えることは難しい。また単純に、遠征の段取りや体調を整えるのも大変なことである。狭い世界なのに（狭い世界だからか）、日程や、日本代表選手（U20 強化選手）選考などの各大会主旨を統括議論していないことは、選手にとって依然「弊害」だと感じる。

2 「普及チャンネル」の可能性（各所への要望）

①2020AsOCinJAPAN ＆2030JWOCinJAPAN 開催

前回 2005 年レポート後に運よく 4 回（東海中高生＋ＯＢでのべ 9 名）のＪＷＯＣ参加となった。2005 愛知世界選手権前後から「わかりやすい目標」として「世界」を掲げた。ただいきなり 1 回の選考会で調子がよく「世界」に出られるのには違和感を感じている。「県→地域→日本→アジア→世界」という流れが必要ではないか。そのため、インターハイ・インカレと全日本、また公認大会や地域大会の各位置付けも含め、中高生がどこを目標にすればよいのか（どこまでステップアップしていけるのか）がわかりやすくしてもらいたい。そして、何よりも最高峰の「世界大会」が目前で開催されるのは、とても意義深いことだと体感している。（個人的には 2030 年（20 年後）なら、少しはお手伝いできるような気がしている……）

②全日本リレー「J」クラスの高価値化（1 位＝10 点）

2010 年度全日本リレーにおいて愛知県が総合 2 位になった。ジュニアは名大・椙大・東海中高で多くのチームを構成し貢献した。この 2005 愛知世界選手権前後からの流れを、各都道府県レベルに拡げていきたい。ジュニアクラスが高得点になれば、大学生の「ふるさと登録」を含め勧誘・育成しようとするのではないだろうか。

③クラブカップリレー「J」制限の高価値化（中高生地域クラブ参加）

2010 年で休止と聞いているが、地域クラブが活性化するための大きな大会は必要であろう。今までよりも優位な「ジュニア制限」枠を設けることで、各地域クラブが勧誘・育成しようとするのではないだろうか。ぜひ中高生の段階から地域クラブに勧誘してもらい、育成してもらいたい。

④ジュニアクラス参加費全大会一律￥500（年間 20 大会で 1 万円）

中高生にかかる費用は、当然保護者の財布から出ている。このご時勢、「受益者負担」が当たり前になってきているが、他競技に比べて保護者への費用負担は大きいのが現状である。このことを 10 年訴え続けてきたことで、特に東海地区においては低額に抑えていただいている。もちろん、各主催者の事情は理解している。そこをあえて、中高生の参加が多くなることの意義を理解してもらい、どの公認大会･地域大会においてもワンコインで参加させてもらえるようにお願いしたい。

⑤普及・育成コンセプトの共有

普及当初に、選手本人やその保護者へのわかりやすい説明が必要となる。また、その各コンセプトの過程に、「たのしさ」と同時に「きびしさ」があることも説明すべきであろう。東海中高での説明はおおよそ次のよう。

(1)目標に向かって努力できるようになる（“世界”をめざす大人になる）　(2)健康的になる（基本的生活習慣が身につく。持久力・集中力がつく）　(3)情緒豊かになる（四季折々の自然に興味関心がわき、やさしい人間になる）　(4)コミュニケーション能力が身につく（先輩後輩、地域の社会人と生涯「仲間」として付き合えるようになる）　(5)旅行が好きになる（時刻表、電車を使った計画が得意になり、知識見聞が広まるようになる）

以上

2005「中高生オリエンティアについて」より

――そこで、そのような状況に対する改善策の一つとして、現在のエリートクラスのシステムの中高生への導入をしてもらいたいと考える。もちろんそのままのシステムではなく。

単発の感がある日々のオリエンテーリング大会に「つながり」を持たせ、その結果が「次のステージへの誘い」を感じさせてくれるものにしていただけないだろうか。

たとえば、地域クラブの大会が練習会程度であるとは感じさせないようにエリートランキングのジュニア版を設けることや、その継続した意識の結果出たランクなどにより、「日本一」大会への出場が決まったり、ランキングや「日本一」大会の結果において強化選手や日本代表などの多数が決まっていくといったものである。オリエンテーリング界でも、システムとしてはある程度でき上がっているものではないだろうか。

また中高生同様に競技人口の減少が著しいと聞く大学生クラスへの参戦なども、現在の自由参加的なものでなく「公認」として意義あるものとして行ってもいい。そして、それらは「ジュニア」「中高生」「大学生」などを育成しようとする機関の下に統一した動きを以ってなされるのがいいのではないか。

また、以前議論があったようだが、クラスの年齢設定や表彰対象も柔軟な設定も各大会で検討してもらいたい。「20 歳以下」「13～16 歳」などと前後の世代と競える状況はありがたいときはあるが、大会の性格や位置づけとの連関やジュニア育成の観点が感じられないのが現状である。それも適切な機関の下に整っていってもらいたい。

また先述した**「地域クラブによるジュニア育成」**の形が熟成してくれば、地域（都道府県が目標で、とりあえずは東北・関東・関西・東海地区などの区分け）対抗でもさまざまな予備大会が催せるかもしれない。

――そこで**「地域クラブ」の活性化**に期待がかかる。「総合型スポーツクラブ」までいきなり発展しなくとも、まずクラブ内に「ジュニア部門」を創設してもらい、できれば他スポーツに出会うまでに、野外活動体験や総合的授業の一つとして学校教育活動・学校行事を通じてオリエンテーリングに親しんでもらう機会を提供してもらう。

資料参加 2011/03/19 JOA O-FORUM2011「多様な普及チャンネルを考える」

東海中学校ワンダーフォーゲル部・東海高校ワンダーフォーゲル同好会について

2011/03/19 JOA O-FORUM2011 資料
東海中学高校顧問 大野聡生

１．活動の実態

１）構成
部員：計 53 名（中１：４名　中２：15 名　中３：18 名　高１：７名　高２：５名　高３：４名）
顧問：大野（※**実質１名**のみ。他に高校同好会顧問として２名いるが、実働していない）

２）組織
小班体制（6 学年一環「先輩後輩関係」重視）
部長：中３（高校生は顧問的に位置する）
小班：会計　企画　交通　勧誘　新入部員指導　美化　総務　※スプリント強化班

３）指導
大野（ＯＬ歴 14 年、ＪＯＡ普及教育委員、大会年約 20 回参加、2008ＪＷＯＣにスタッフとして帯同）
※前顧問岡野先生（愛知ＯＬＣ）が退職されて３年。
※過去に安斎さん（三河ＯＬＣ）が週一度ボランティアコーチで来校。

４）**地域クラブとの連携(コーチ、合同合宿、合同練習会など)**
愛知ＯＬＣ（前顧問岡野先生所属クラブ）　ＮＰＯトータス（夏･冬ジュニア合宿）
岐阜ＯＬＣ（名大１年近藤所属　初心者教室）　岡崎ＯＬ協会（岡崎ＯＬ教室　初心者教室）

５）活動比率
90%　オリエンテーリング（競技性を通じて育成）
10%　登山・キャンプ（仲間意識育成　※50 名を超えた段階で実施困難状態が続いている）

６）大会等活動形態
「原則参加」「希望参加」「自主参加」の種別行事設定と参加希望聴取による

７）活動数
平常：月水金（近隣公園　千種公園・名城公園・茶屋が坂公園・矢田川河川敷・教室ミーティング等）
土日：月 2･3 回（東海３県内山野・公園）
合宿：年４回＋α（夏キャンプ登山・夏ＯＢ主催・冬ジュニア強化・春ホステリング）

８）目標
長期「30 年間（顧問在籍期間）の先輩後輩の連携」「**地域クラブとの連携**」「指導法の確立」
短期「インターハイ完全連覇」「全日本代表選手(シニア)輩出」「高校部活昇格」
~~「全日本スプリント決勝進出」~~(2010 年度達成)~~「ＯＢを含めたチーム編成でＣＣ７10 位以内」~~(2009 年度達成)

９）その他
ＨＰやブログで広報活動。(「顧問版」と「生徒版」それぞれ独立し、相互干渉なし)
「ＯＬＣ東海」としての活動（主に大会運営による競技理解機会）休止中。

２．保護者との関係

１）定例保護者会
５月：新入部員保護者説明会併催
７月：大会会場でオリエンテーリングを見てもらう・体験してもらう　夏季行事の説明
３月：一年のまとめ　春季行事の説明

２）費用
保護者負担（年間約 10 万）
用具：コンパス（¥2,500）・練習着（¥10,000）・大会着（¥15,000）
遠征：大会交通費・昼食（年 20 回程度）
合宿：年 4･5 回程度（2 泊 3 日程度、平均¥10,000）
学校負担（中学部費¥100,000、中学ＰＴＡ寄付金¥35,000、高校同好会費¥20,000）
消耗品：キャンプ用品
参加費：県大会２回（一人あたり約¥1,000)、全国大会補助（約¥1,000)、県協会登録（¥500）

３．課題

１）練習場所（公園内、往復中の危険）・練習機会（実践練習の不足）
２）指導者・後継者（**地域クラブとの連携、外部コーチの導入、新規顧問補充**を希望するタイミング）
３）保護者費用負担（年間の活動量との関係）
４）オリエンテーリングのマイナー性（高体連未加盟競技、全国・世界大会の位置づけ）
５）ＯＢ会活動（現役への指導・援助）の充実
６）部活（仕事）と家庭の両立

以上